

はまな

No. 547 平成 26 年 9 月

静岡県水産技術研究所浜名湖分場

〒431-0214

静岡県浜松市西区舞阪町弁天島 5005-1

TEL 053-592-0139 FAX 053-592-0906

<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/hamanako>

e-mail:suigi-hamanako@pref.shizuoka.lg.jp

目次

浜名湖の危険な生物に注意しましょう	□ □ □ 1
魚類の防疫に関するトピックス	□ □ □ 2
県民の日「親子水産探検隊」を開催しました	□ □ □ 4
トラフグヒレカット標識放流を実施しました	□ □ □ 5
浜名湖で新たに記録された魚たち：メイタイシガキフグ	□ □ □ 6
体験学習施設「ウォット」より	□ □ □ 6

浜名湖の危険な生物に注意しましょう

今中 園実

浜名湖は、潮干狩りや釣りなど、マリレジャーの名所となっています。読者の皆様の中にも、夏の浜名湖で遊んだことがある方も多くいると思います。

浜名湖にはさまざまな種類の生物が生息していて、私たちを楽しませてくれますが、中には毒のある針を持つなど、触ると危険な生物もいます。これらの生物にうっ

かり触ると、とても痛い思いをしたり、時には生命に関わることもあります。

浜名湖内の危険な生物は、簡単に見分けられるものがほとんどです。これらの生物を覚えていただき、安全に楽しく浜名湖で遊んでください。

浜名湖で特に注意が必要な生物



ヒョウモンダコ

大きさ : 約 10 cm

特徴 : 体表に、青い円形の模様

猛毒があり、噛まれると危険。

浜名湖ではあまり見かけないが、要注意。



ゴンズイ

大きさ : 5 ~ 30 cm

特徴 : ナマズに似ており、体表に黄色の筋がある。

群れになることが多い。

胸ビレ、背ビレに毒があり、刺されるととても痛い。



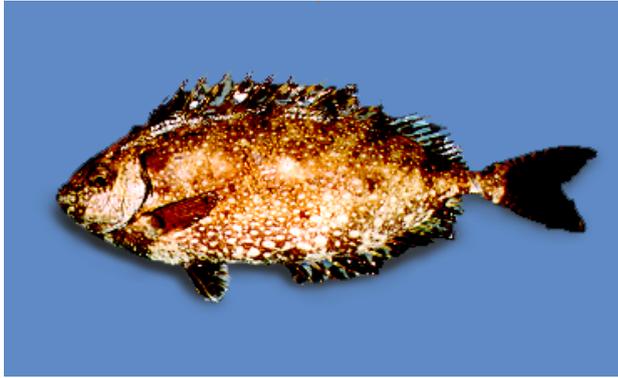
ハオコゼ

大きさ : 約 10 cm

特徴 : 赤っぽく、まだら状の模様

背ビレに、臀ヒレに毒がある。

刺されると痛く、痛みが長く続く。

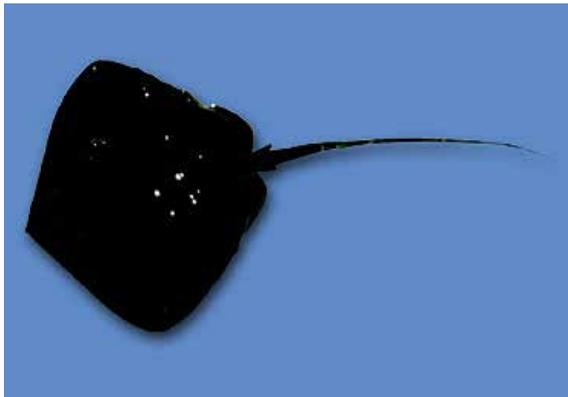


アイゴ

大きさ : 20 ~ 30 cm

特徴 : 茶褐色で、体表に白い斑点

背ビレ、腹ビレ、臀ビレの突起に毒がある。
刺されると痛む。



アカエイ

大きさ : 10cm ~ 1m 以上

特徴 : 体はひし型で、尾に大きな
針がある。

針には毒があり、刺されるととても痛く、
腫れを伴う。

魚類の防疫に関するトピックス

青島 秀治・今中 園実

●アユの病気を広めないようにしましょう！

アユは、川魚の代表として広く親しまれています。アユ釣りは、河川での釣りの中でも人気があり、本誌をご覧いただいている皆様の中にも「アユ釣りが大好き」という方がいるのでは？と思います。また、春から夏にかけては、河川でのアユ放流イベントも多く行われます。

ところが近年、アユに大量死などを引き起こす病気が天然の水域で広がっていることが問題となっています。そして、楽しいはずのアユ釣りや放流イベントが、病気を広げる原因になっている可能性もあるのです。釣り用のおとりアユや放流用のアユは日本各地で漁獲・生産されて出荷されますが、病気が発生した、又は発生したことがある水域のアユは、病原体を体内に持っている可能性があり、別の河川などに放すと、新しく放された場所に生息するアユにも病気が感染し、大量死の原因となる恐れがあります。そして、一度病気が持ち込まれた水域からは、病原体を除去することは非常に難しいため、病気によるアユの大量死が繰り返し起こる可能性が生じてしまい、アユを楽しめない環境となってしまいます。

近年、河川での発生が問題となっている病気には、次のようなものがあります。

●冷水病

水温25℃以下で発生する。細菌病。病魚は貧血となり、鰓などが白っぽく見えることがある。

●エドワジエラ・イクタルリ症

高水温の時期に（7～10月ごろ）発生しやすい。細菌病。病魚は、腹部が膨らんだり、眼球が飛び出たりすることが多い。

病気にかかった魚の外観には個体差があり、見ただけでこれらの病気を見つけることは極めて困難です。また、アユには他にも多くの病気が知られており、当然のことながら、上記2種以外の病気も、河川などに広げてしまうのは防がなければなりません。

次ページには、釣りや放流を楽しむ皆様に、アユの病気を広げないために心がけていただきたいポイントが、分かりやすく示されています。これらのポイントを知っていただき、いつまでもアユを楽しめる環境を守っていきましょう。

<参考文献>

- ・アユ疾病対策協議会（2011）：アユ疾病に関する防疫指針。
- ・小川・室賀編（2008）：改定・魚病学概論・恒星社厚生閣

今こそ、アユに一番近い 釣り人の皆さんの 協力が必要です！

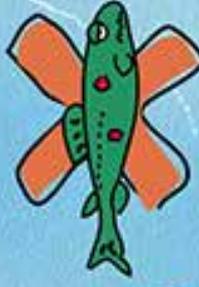
アユの冷水病やエドワジエラ・イクタリイ
感染症は細菌が原因の病気で
病気を発生させないためには

- ❗ 釣り場に病気のアユを持ち込まない
- ❗ 病気が発生しているところから
病原菌を持ち込まない

マナーというより
私達釣り人の
義務ですね！

これらの病原菌は人には感染しません

アユの病気を広めないための 4つのポイント



1

体表に異常があったり、
元気がないおとりアユは
買わない



釣ったアユ、
おとりは逃がさずに
すべて持ち帰る

2

釣り場で買ったオトリや
釣ったアユは、他の河川では
オトリとして使わない

3

4 釣ったあとの釣り道具は、
十分に日光消毒する

1日の内に河川間を移動するときは、
その都度消毒用アルコール等により
消毒する



●「水産用医薬品の使用について」

第27報が発行されました

養殖業を営む方々にはお馴染の水産用医薬品の取り扱いについて取りまとめた冊子、「水産用医薬品の使用について」の最新版である第27報が、水産庁消費・安全局畜水産安全管理課から発行されました。

第26報からの変更点において、ウナギやアユに直接関係するものではありませんが、お手元の冊子を今一度確認の上、水産用医薬品を使用する際には間違いの無いように十分に注意してください。

参考までに、冊子に記載されている「水産用医薬品の使用に当たっての全般的な注意」の一部を下に転載します。食品衛生法違反(医薬品の残留)を未然に防ぐためにも、添付文書に記載されている事項をきちんと守るだけでなく、医薬品の購入記録・使用記録をきちんと整理してください。更に、投薬中の池や休薬期間中の池にその旨表示するなどして、万が一のとり間違え出荷がないようにも努めてください。

なお、御不明な点は当分場までお問い合わせください。冊子が必要な方も、浜名湖分場まで御連絡ください。よろしく申し上げます。

水産用医薬品の使用に当たっての全般的な注意

- ・承認を受けた水産用医薬品について、その効能・効果の対象となっている水産動物、用法・用量、使用上の注意及び使用禁止期間・休薬期間を遵守して使用してください。
- ・養殖水産動物に未承認医薬品※を使用することはできません。
- ・医薬品を使用したら使用記録を付けましょう。

※ 試薬や工業用薬品など医薬品の承認を受けていない薬剤のことです。

食品に使えるからといって、「食品添加物用〇〇」と記載された薬品を使うこともできません。

また、医薬品と同一有効成分であっても、「食品添加物用」、「工業用」などの薬品の使用も禁止されています。

県民の日「親子水産探検隊」を開催しました

今中 園実

浜名湖分場では、今年も8月21日「県民の日」に、小学生の親子を対象としたイベント「親子水産探検隊」を開催しました。このイベントは、「県民の日」限定で毎年開催しており、事前に応募いただいた小学生の親子に、ウナギの給餌見学と手づかみ体験、チリメンモンスター(しらす干しの中の混獲物)探し、及び隣接する「体験学習施設ウォット」の協力による「ウォット裏側探検ツアー」の3つの企画を体験してもらっています。私たち職員は、普段は研究や漁業者への普及活動を行っていますが、この日だけはイベントスタッフとして、参加者の皆様に水産業を体感してもらうためのお手伝いをしています。

本年は、親子14組(小学生19名)が参加しました。ウナギの給餌見学は、このイベントでは毎年行っていますが、今年はウナギの餌を機械で練る様子を初めて見学してもらいました。職員が、大きな練り機でウナギの餌を練ると、参加した子供たちは機械の周りに集まり、夢中で様子を見ていました。練った餌はその場で飼育して

いるウナギに給餌し、餌を食べる様子を見学してもらいます。ウナギが餌箱に勢いよく集まり、水しぶきを上げて食べる様子は、参加者をとても驚かせていました。給餌見学の後に行った、タッチプールでウナギに触る「手づかみ体験」も好評で、子供たちは夢中でウナギに触っていました。チリメンモンスター探しでは、しらす干しに混じっている別種の魚や甲殻類などの生物を探し出し、どんな生き物なのかを調べてもらいました。シラスと一緒に乾燥されたこれらの生き物は、形が変わってしまっているので、名前を調べるのは難しいことも多いのですが、子供たちはとても喜んでチャレンジしてくれました。しらす干しは食べるだけでなく、このような楽しい遊びも提供してくれます。チリメンモンスター探しを通し、海の恵みに感謝する気持ちを育ててほしいと思います。昼食後には「ウォット裏側探検ツアー」を行いました。ウォット職員の案内で、大水槽の上側や、水槽用の海水をくみ上げる場所などを見てもらいました(表紙の写真)。水族館では色とりどりの魚が泳ぐ水槽を見て

楽しめますが、魚介類の展示には、目に見えない工夫があることも分かってもらえたのでは、と思います。

日頃から水産物を見慣れている私たち職員ですが、参加する子供たちが驚いたり、喜んだりしてくれる姿はと

ても新鮮で、水産業や海の生き物は魅力にあふれていることを、改めて実感しています。「親子水産探検隊」は、今後も内容を工夫し、参加者に楽しんでもらえるイベントとなるよう、職員皆で取り組んでいきます。

<親子水産探検隊の風景>



ウナギの餌ねり機について説明



チリメンモンスター探し

トラフグのヒレカット標識放流を行いました

山内 悟

県ふぐ組合連合会が事業主体となり、静岡県温水利用研究センターで生産されたトラフグ種苗3万尾が、本年度も6月27日に三重県有滝漁港に放流されました。有滝漁港は伊勢市の北部にあり、伊勢湾に注ぐ外城田川の河口に位置する比較的大きな漁港です。

今までの研究成果から、遠州灘を含むこの海域のトラフグ(伊勢・三河湾系群)においては、伊勢湾が放流の最適地であることが分かってきました。そこで、今まで県内だけで実施していた放流事業の一部を、放流効果を高めるために県境を越えて伊勢湾に稚魚を運び放流することになりました。この放流事業は平成19年度から継続して行われており、今年は8回目となります。

この地域へのトラフグ放流では、毎年の放流に際して「鰭カット」標識を施しています。鰭カット標識は、放流種苗の胸鰭をハサミなどで切除する方法(写真)であり、成長に伴う胸鰭の再生の乱れや変形を水揚げされた市場などで目視により検出する方法です。鰭カット放流は、東海3県の中では本事業による放流のみであり、毎年、左右の胸鰭を交互に切り分けることにより、漁獲された時の年齢を正確に確認できます。また、鰭カット標識は、

ハサミ以外の特別の道具を必要としない経済的な方法であり、作業も容易なことから誰でも参加できる長所があります。ただし、作業を行うための種苗サイズとして全長60~70mmの大型サイズが必要となります。

今回は、有滝漁港へ放流した3万尾のうち1万尾に鰭カット標識を施しました。これら放流された種苗の一部は、来年の10月からの漁期において1歳魚(およそ800g)として、静岡県遠州灘で漁獲に加わります。



胸鰭カットの様子

浜名湖で新たに記録された魚たち

霜村胤日人

魚類 No. 471 メイタイシガキフグ

(*Cylichthys orbicularis*)

採取日 : 2014年7月1日

採取場所 : 浜松市西区雄踏町地先

採取方法 : 角建網

本種は、インド・西太平洋の熱帯域に生息しているフグの仲間です。本県では、伊豆半島で既に確認されている種ですが、浜名湖では今回が初登場となりました。とても可愛い姿で、皆さんもよく御存知のハリセンボンの近縁種とされています。



体験学習施設「ウオット」より

★浜名湖で変わったヒラメが見つかりました★

8月2日（土）に、浜名湖で釣りをしていた方から変わったヒラメが捕れたと連絡がありました。

確認すると目の位置が左右逆のヒラメでした。昔からヒラメとカレイを見分けるコツとして、「左ヒラメに右カレイ」という言葉があります。今回、右側に目をもつヒラメが捕れたことはたいへん珍しいことです。このヒラメは、「ウオット」にて2週間ほど展示しました。

（ウオット職員 杉村 達樹）



★イベント案内★

○体験教室（要予約）

- ・「オリジナル立体解説板作り」

10月18日（土）10：00～11：30

（定員20名）

生き物の立体解説板を作ります。

- ・「ドッキドキ！うらがわ探検ツアー」

11月22日（土）10：00～11：00（定員20名）

クイズに挑戦しながら裏側を見学します。

- ・「カキのアレコレ大発見！」

12月13日（土）10：00～12：00

（定員20名：小学生以上）

浜名湖のカキについて学びます。

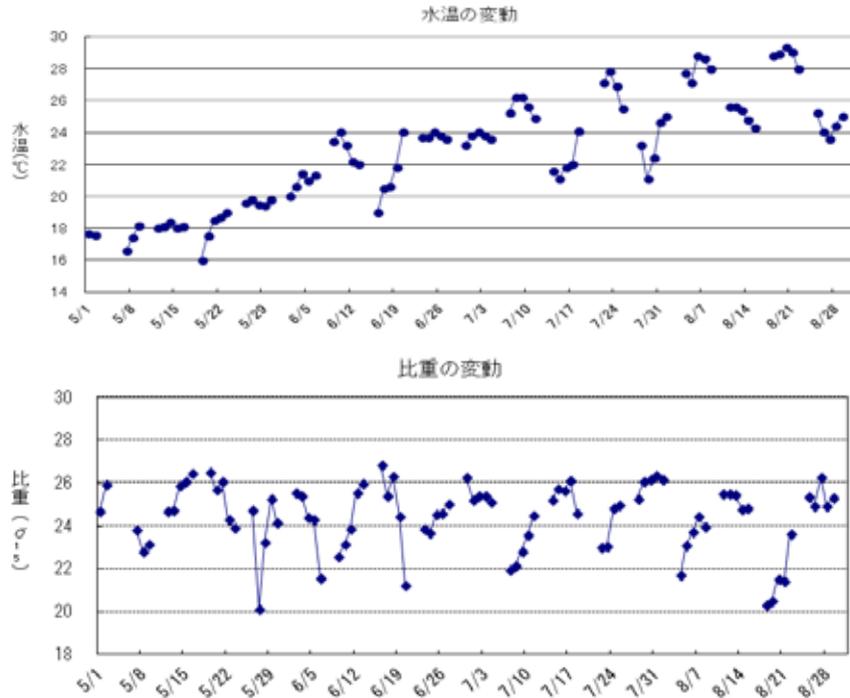
- ・「毛糸でボンボン！お魚マスコット作り！」

12月20日（土）10：00～11：00（定員20名）

毛糸を使って工作します。

*本コーナーについてのお問い合わせ、お申し込み等は、ウオット（TEL:053-592-2880）にお尋ねください。

弁天島の水温・比重（平成26年5～8月）



水温(°C)	5月				6月				7月				8月			
	上旬	中旬	下旬	月平均												
2014年	17.5	17.7	05	18.2	21.7	21.7	23.7	22.3	24.8	22.6	24.8	24.1	24.1	27.5	26.6	25.6
平年 (過去10年平均)	18.4	19.0	20.1	19.1	21.5	22.7	23.4	22.6	23.9	24.8	25.9	24.9	24.9	27.2	27.3	26.9

比重(ρ15)	5月				6月				7月				8月			
	上旬	中旬	下旬	月平均												
2014年	24.1	25.7	24.0	24.6	23.9	25.0	24.7	24.5	24.0	25.3	25.0	25.3	24.7	23.9	23.6	24.6
平年 (過去10年平均)	24.2	24.2	23.7	24.1	23.8	22.9	22.5	23.1	22.4	22.4	22.3	22.4	22.4	23.0	23.0	23.0

分 場 日 誌（平成26年5～8月）

26年5月

- 7日 漁業高等学園による分場見学
- 14日 浜名湖の水をきれいにする会総会（浜松）
- 20日 定点観測（浜名湖）
- 31日 ツメタガイ卵塊駆除（浜名湖）

26年6月

- 3～25日 太田川トラフグ放流、再捕試験（磐田）
- 7日 気賀水産祭
- 9日 6次産業化推進会議（静岡）
- 13日 県トラフグ漁業者協議会（静岡）
- 17日 定点観測（浜名湖）

26年7月

- 4日 漁業士会西部支部会（当場）
- 6日 白洲水産祭
- 15日 定点観測（浜名湖）
- 27日 シンポジウム「うなぎの未来」Ⅱ（東京）

26年8月

- 5日 定点観測（浜名湖）
- 6日 6次化専門企画推進員との打ち合わせ（当場）
- 18～26日 クルマエビ中間育成（雄踏、白洲）
- 21日 県民の日親子水産探検隊（当場）